Painlevé I 発まをまたついる

爱媛大学 工 卷高 惟绮

多の 序 Painlevé I型方程す

(1)
$$u'' = 6u^2 + 2$$

の解の複素で平面上で有理型割数でする。解の新しい起動 割数と信じられているが、色の詳しい性質ななとんど知られ さいない。ここでは原文中かのLaurent 新数で表れるれる この存践解しついて、主として収集年経を中から詳しく論 ずる。数値計算とかんする部分は全て愛媛大学工学部 野田 松太郎氏しよる。初期条件によって

Regular Case

Singular Cone

(3) $2^{2}u^{2}|_{z=0}$, $(\frac{d}{dz})^{6}(z^{2}u^{2})|_{z=0}$ = 0

のとつの場合に分ける考える。それぞれの場合

(4)
$$U_R(2) = \frac{1}{6} z^3 + \frac{1}{336} z^8 + \frac{1}{26208} z^{13} + \cdots$$

(5) $U_{S}(-2) = 2^{-2} + \frac{1}{6} 2^{3} + \frac{1}{264} 2^{4} + \frac{1}{19008} 2^{13} + \cdots$ 2 Lannart 應用される解を持つ。 = 459個美华経至台和
2 4 R, 产 と月3と2

数値計算の科集

$$(7) \qquad \beta = 2.562$$

かる値を得た。又数値計算を通いて次のことを予想している。
予想

UR(E), Up(-t) はその収集円周にととれぞれ

Resp
$$\frac{2k\pi}{5}i$$
, $\Rightarrow esp \frac{2k\pi}{5}i$ $(k=0,1,2,3,4)$

なるか知のと短の独立もつ(ニニチャの以下に示えれている)がこれる以外に得異矣をもたない。

さて計らの上記の値(6),(タ)を初水や発表する訳であるから少なくともこれらの値が、大きくまながってはいないという理論的保障をしなくていならない。小数奏以下何称まで信用できるかとい、たこまかい吟味はこれから名の話である。

以下とふりようと 次の許短を移る。

評個

よからの評価を与える数値の計算機により得られてものですって、も、とスとい計算機がみれば、これらよりも、とない 値が得られると予想している。下からの評価にかんしては 以下の(5:28)、(5:29)の方が定い結果になっているとのと期待 しているが、この部分の数値計算り目下裏行中である。

R,\$の相至の関係なれのとうり。

(10)
$$\left(\frac{72}{102}\right)^{\frac{1}{10}}R \leq \beta \leq R \leq \left(\frac{102}{72}\right)^{\frac{1}{10}}\beta$$

 $\left(\frac{72}{102}\right)^{\frac{1}{10}} = 0.972275, \left(\frac{102}{72}\right)^{\frac{1}{10}} = 1.02852$

がその数値(6),(7)な以上の理論的課限すと手盾していたい。 したか、マー志信頼してよいと思いている。

81 形計解. 以下(1)の針かりと

(1.1)
$$U'' = 6u^2 + 2 + \frac{1}{6} 2^6 \qquad (1:11°5 \times -6-)$$

を作える。 N=1の場合か(1)である。 こつの野村は場合 <u>Peguler Case</u>

Singular Care

$$(/13)$$
 $\frac{1}{2^2u(2)}\Big|_{2=0} = /$ $\frac{4}{4\pi}\Big|_{2^2u(2)}\Big|_{2=0} = 0$

を考える。をみぞれの場合次のような4手級数で表めてれる形す解をする。

(1.4)
$$U_R(z,\lambda) = \sqrt{z^3 + \frac{1}{336}} v(z,\lambda)$$

te to L

(1.6)
$$v(z, \lambda) = \sum_{j,k=0}^{\infty} a_{jk} z^{5j-2} (\lambda z^{10})^{k+1}$$

$$= \sum_{\ell=0}^{\infty} A_{\ell}(\lambda) z^{5\ell+8}$$

$$(1,18)$$
 $N(2,1) = \sum_{k=0}^{\infty} V_{k}(2) \lambda^{k+1}$

$$(1.19) \quad w(2\lambda) = \sum_{k=0}^{\infty} w_k(2) \lambda^{k+1}$$

2 7 3 E

(1,20)
$$V_{k}(z) = \sum_{j=0}^{N} a_{jk} z^{5j+10k+8} k^{20/2,-}$$

~ 7 3 0 (1.8) (1.12) to 1/2 to

(1,22)
$$V_0(2) = z^* / (1; \frac{12}{5}, \frac{13}{5}; \frac{2}{25} z^5)$$

$$(1,23)$$
 $w_{0}(2) = \frac{2}{5} \sqrt{\frac{1}{5}} \left(1\right) \frac{2}{5} \frac{16}{5} \left(\frac{2}{5}\right)^{25} \frac{2^{5}}{5}$

も733。 Fz 12 Pochhammer の起禁何期数 2m

2" x 30 (1.18) E (1.16) E (1.19) E (1.17) EAX & 32E

(1,24)
$$S L V_0 = 5826$$

 $L V_{k+1} = \frac{1}{56} \sum_{k_1 + k_2 = k} V_{k_1} V_{k_2} \qquad (k=0,1,2,...)$

(1.25)
$$\leq M w_0 = 442^6$$

 $M w_{k+1} = \frac{1}{44} \sum_{k+k_2=k} w_{k_1} w_{k_2} \quad (k=0,12;...)$

个中級数 UREN, USEN の烟季等程正生水等水 R(N), F(N) とする。以下の目的は R(N), S(N) 上对引逐 生物課題正本以る二とごみる。

多2 渐化扩至度,左評确.

程動の入口対して RA) >0 , FA) >0 であることは(1.11) (1.15) よりすべめかる。 (1.11), (1.15) より次の評解が従う。 是程 21/

11/2/ a = 2

(2,1)
$$|A_{R}(\alpha)| \leq C_{R}^{\ell} |\alpha|^{\frac{\ell}{2}+1}$$
 ($\ell = 0, 1, 2, --$)

$$(2.2) |B_{\ell}(a)| \leq C_{\beta}^{\ell} |A|^{\frac{\ell}{2}+1} (\ell = 0, 12, --)$$

かがりもつ。 たなし

$$C_R = \frac{1}{2} \left[\frac{1}{153} + \sqrt{\frac{1}{153^2} + \frac{1}{1260}} \right] = 0.0177279$$

$$C_{S} = \frac{1}{2} \left[\frac{1}{147} + \sqrt{\frac{1}{147^{2}} + \frac{1}{1155}} \right] \stackrel{?}{=} 0.0185016$$

(2.3)
$$R(A) \ge e_R^{-\frac{1}{2}} \mu I^{-\frac{1}{10}}$$
 ($\mu I \ge I$)

(24)
$$S(1) \ge e_p^{-\frac{1}{2}} |A|^{-\frac{1}{10}}$$
 (A|21)

Br 1=1 az =

(2.5)
$$R = RII) \ge C_R^{-\frac{1}{5}} = 2.2401082$$

(2.6)
$$\beta = \beta(1) \ge C_{\beta}^{-\frac{1}{2}} = 2.22/05$$

又介の預報が成り至了。

$$|u_{R}(z,\lambda)| \leq u(|z|,|\lambda|) \leq \frac{1}{8}|z|^{3} + \frac{1}{336}|\lambda||z|^{8} (|-C_{R}|\lambda||^{\frac{1}{2}}|z|^{5})^{-1}$$

$$(|z| < C_{R}^{-\frac{1}{2}}|\lambda|^{-\frac{1}{10}})$$

$$\leq |z|^{-2} + \frac{1}{6}|z|^{3} + \frac{1}{269}|\lambda||z|^{8}(|-c_{5}|\lambda||^{\frac{1}{2}|z|^{5}})^{-1}$$

$$(|z| < c_{5}^{-\frac{1}{5}}|\lambda|^{\frac{1}{10}})$$

§3 WeierstrassのP周後を現り上評価.

この節の程果として得るかる R, S 上科月31からの評 ないな節の科果より基心が この節の結論ををかなりの意味 はも、マル3と思う。 Weierstrass のP 樹枝 P(で) み, み) ト科1マ

と Taylor 屋南すると な数は次の潮化する走まる。

(3,2)
$$\begin{cases} a_0 = \frac{3}{40} g_2, & a_1 = \frac{3}{56} g_3 \\ a_{l+2} = \frac{1}{(l+1)(l+\frac{q}{2})} \sum_{l+l_2=l} a_{l_1} a_{l_2} & (l=0/2...) \end{cases}$$

$$(3.3)$$
 $g_2 = \frac{51}{1428}$, $g_3 = \frac{1}{15912}$

293E

8mh 1 3. 2 (1.15) EEL1=2 120 a = 2

$$\beta.5$$
) $f_2 = \frac{51}{1078}$, $f_3 = \frac{1}{11088}$

(3.6) Be (1)
$$\geq \frac{8824}{3}$$
 at (1=0/2,---)

を得る。したが、と近の評値が疑う。

差程 3.1

A>O と93。 OSR< RA) のとま g2, な を(3.3) ごをおこと

(3.7)
$$U_{R}(\lambda, \lambda) \geq \frac{1}{2} x^{3} + 17 x^{3} \left[P(x^{\frac{5}{2}}, g_{2}g_{3}) - x^{-\frac{1}{2}} \right]$$

$$2 g_{2}, g_{3} = (3.5) \approx \frac{1}{2} x^{3} + 2 \quad 0 \leq x < 5(\lambda) \quad 0 \geq \frac{1}{2}$$
(3.8) $U_{\beta}(-x, \lambda) \geq x^{-2} + \frac{1}{2} x^{3} + \frac{49}{3} x^{3} \left[P(x^{\frac{5}{2}}, g_{2}g_{3}) - x^{-5} \right]$

29 32

$$2\widetilde{\omega} = \frac{2K(\widetilde{K})}{|e_{\gamma} - e_{\beta}|^{1/2}} \left(K : \beta | \widetilde{\beta} = \widetilde{\beta} = \widetilde{\beta} \right)$$

が P(ス; み,み) の正の乗削上にお、マー着原集に近い 野男なとなる。 (2~) が R (又はな) に対する上 かろの評価をよるる。このようたして承めた評価な

$$(3.9)$$
 $R \leq 2.823377292$

多 4 缎分子等寸を使った評価

カンのとする。新野です、(なようと O< RU)、が(1) <のです。?

(4.1)
$$\lim_{z\to RA)\to 0} v(z,\lambda) = +\infty$$
, $\lim_{z\to RA)\to 0} v(z,\lambda) = +\infty$

でみるの ALU) >0, BLU) >0 (4) と発養するで (1.16) (1.17) まり

(4.3) が(に1) > 44 が(に1) (05スペ 5(1)) か続う。これらの総名子覧はより次の転集を得る。

是馆 4/

1つのとする。次の子質がかなりまつ。

さとたのう等かん

を組み金かせると

(4.8)
$$R(h) \leq \left[\frac{336}{a_{jk} A^{k+1}} \int_{jk} {}^{k} {}^{k} {}^{k} \right] \int_{-\infty}^{\infty} \left(0 < \frac{k}{2} < 1\right)$$

を得る。 たなし

2230

(4,10) ani
$$f_{ik}(\xi) = \left(\frac{5j+10k+10}{5j+10k+8}\right)^{2}$$

でおるから、新局次の子等小を得る。

(4.11)
$$R(\Lambda) \leq \frac{5j+10k+10}{5j+10k+8} \left[\frac{84(5j+10k+8)^2}{ajk \Lambda^{k+1}} \right]^{\frac{5j+10k+10}{5j+10k+8}}$$

$$(4,12) \quad \beta(1) \leq \frac{5}{1710k+10} \int \frac{66}{b_{jk}} \frac{(5)710k+8}{b_{jk}} \int \frac{5}{7710k+10}$$

j=k=0 ×12 200=/ KZZg32

是豫 4.2

入>のとりると 次の詳細がなりを2。

$$(4.13)$$
 $R(1) \le \frac{5}{4} (5376)^{\frac{1}{10}} \lambda^{-\frac{1}{10}}$

$$(4.14)$$
 $511) \leq \frac{5}{4} (4224)^{\frac{1}{10}} \lambda^{-\frac{1}{10}}$

93 k 1=/ 6 7 3 %

(4.15)
$$R \leq \frac{5}{4}(5376)^{\frac{1}{0}} = 2.9509125$$

$$(4.16)$$
 $\beta \leq \frac{5}{4}(4224)^{\frac{1}{10}} = 2.8806$

この評価の新節の野果を外奏い。さる(4.11)(4.12)におい

2 k=0 KL (1/8) (1/2) 上海東月 2 E

を得るが、かして周覧を対する Stirling の公式を使うと

となる。 する なりなく イナノ となるようとがととかかかり 発調を得る。

是禮 4.3

直当なんこのトチレスの詳細がなります。

(4.17)
$$R(1), \beta(1) \leq const(\log \frac{1}{2})^{\frac{2}{5}}$$
 (0< x < 1.0)

少しかき返しをれてが R, かを評価するという最初の向 題に立ちかえろう。 (44),(45) ヒ

を組み合めせると

$$(9.20) \quad R(A) \leq \left[\frac{336}{A_{\ell}(A)} g_{\ell}(\overline{s})\right]^{\frac{1}{5\ell+10}} \quad \left(0 < \overline{s} < 1\right)$$

$$(4.21)$$
 $\xi(1) \leq \left[\frac{264}{B_{00}}, g_{2}(\xi)\right]^{\frac{1}{52410}} (0 < \xi < 1)$

を得る。たなし

2730

(4.22) min
$$g_{\ell}(\xi) = \left(\frac{5\ell+10}{5\ell+8}\right)^{5\ell+10} \left(\frac{5\ell+8}{2}\right)^2$$

81%

$$(4,24)$$
 $S(1) = \frac{5l+10}{5l+8} \left[\frac{66(5l+8)^2}{B_0(1)} \right]^{\frac{1}{5l+10}}$ $(l=0,12,...)$

明集等語を引える Canchy-Hadamard のはずとまると (4,23) (4,24)のな近の l→+のとしてときの下路間は とかなかまなのなとしない したか、これの話論を得る。

展建 4.4 绍養ng m 上科 12

二本で(4,23)(4,24)の単に RM, SM) を科すると骨を多え こいるだりでのなく 原理的ものいくらできよい近似種を子 之得るということかめかって。しかし原際上数値をはれよう と思うを計算可能なのは最初の戸限的ですでみまから どん なりをい題が得る外るのは実際上計算を乗行してみなけれか めからない。 1~1 の場合からの所の計算機の能力の限界ま ご計算した結果は 以下とみるようと(3,9)(3.10)(4.16)(4.16) と此就して移路になっ結果を発え。(4,23)(4,24)の子等か の在心を見るとでれ RLM)、 ちゃん)、 ちゃん一 のとま Re(1)= Re 、 下e(1)= Fe と置くことにする。 051546 9轮回下展,原加海湖湖头产品,已

R45 = 2,6656 8072747

F46 = 2.608/3485/08

したが、とすかなゆとりまも、マドの海狸からなさまる。

(4,27) R & 2,666

(4.28) \$ \$ 2.609

多ち 静類型変形がッセル方後オとみなしこの評組、 (1.16) (1.17) は静類型変形がッセル方程式とみなせる。

22. (x (1.16), (1.17) 12

(5,2) V"+ &V'- (1+ 2532) V = 45 + & V2

となるが、非縁型項を含む在迅を静存が頂とみる、色外を外りなる。および、外を発行で、セル方路ずでおるの 雑類型 うたが (1,14) (1,17) を無限四の類型方程す (1,24)(1,25)に分解して答える。 総分作用業 し みよか M ニ 対する 基本解 そ [(,0), K,0), く [(,0)], を (,0), K,0), を でのようしえるぶ

$$(5,4)$$
 $SI_{R/2} = 2^{\frac{1}{2}}I_{1/2} \left(\frac{2\sqrt{2}}{5} 2^{\frac{5}{2}}\right)$
 $K_{R/2} = 2^{\frac{1}{2}}K_{1/2} \left(\frac{2\sqrt{2}}{5} 2^{\frac{5}{2}}\right)$

$$(5.5) \int_{S} I_{S}(z) = 2^{\frac{1}{2}} I_{\frac{3}{2}} \left(\frac{2\sqrt{2}}{5} 2^{\frac{5}{2}} \right)$$

$$K_{S}(z) = 2^{\frac{1}{2}} K_{\frac{3}{2}} \left(\frac{2\sqrt{2}}{5} 2^{\frac{5}{2}} \right)$$

Jue)、ち(き) はン次差形かっとい関数である。 そんぞれの ロンスキアレ は次のようとなる。

(1,24) (1,25) E是数量化还不解以不

(6.8)
$$V_0(e) = A_R I_R(e) - \frac{1/2}{5} I_R(e) \int_2^{\infty} K_R(t) t^6 dt + K_R(e) \int_0^2 K_R(t) t^6 dt$$

$$(5,9)$$
 $w_{0}(2) = A_{p}I_{p}(2) - \frac{88}{5}[I_{p}(2)]_{2}^{\infty}K_{p}(1)^{6}dt + K_{p}(2)^{7}I_{p}(2) + 6dt]$

となる。ななし差数 AR, As は

(5,10)
$$A_{R} = 2^{-\frac{3}{5}} \cdot \frac{3}{5} \cdot \frac{12}{5} \cdot \frac{13}{5} = \frac{336\pi}{5\sqrt{5+\sqrt{5}}} = 78,48/596$$

(5.11)
$$A_3 = 2^{-\frac{3}{2}} 5^{\frac{3}{2}} 7 \frac{2}{5} 17 \frac{16}{5} = \frac{264\pi}{5\sqrt{5-\sqrt{5}}} = \frac{99.774627}{5\sqrt{5-\sqrt{5}}}$$

と計算をよるか これの次のW.B. Fordの記ずによる。

$$(5,12)$$
 $\overline{f_2}(1;k,2;2) \sim \frac{f(k)f(2)}{2\sqrt{\pi}} z^{\frac{3}{4} - \frac{k+2}{2}} e^{2z^{\frac{1}{2}}}$

同ガーに

$$(5.13) \quad V_{k+1}(z) = \frac{1}{140} \int_{0}^{z} \left[I_{R}(z) K_{R}(t) - I_{R}(t) K_{R}(z) \right] \sum_{k+k_{z}=k} V_{k}(t) dt \\ \left(k = 0, 1, z, \cdots \right)$$

(5,14)
$$W_{k+1}(2) = \frac{1}{10} \int_{0}^{2} \left[I_{S}(2) K_{S}(4) - I_{S}(4) K_{S}(2) \right] \sum_{k \neq k_{S} \neq k} w_{k_{1}}(4) w_{k_{2}}(4) dt$$

$$(k = 0, 12, \cdots)$$

王得子。

$$(5i15) \quad N_0(\alpha) \leq A_R I_R(\alpha)$$

$$(5.16)$$
 $V_{k+1}(\alpha) \leq \frac{1}{140} I_{R}(\alpha) \int_{0}^{2} K_{R}(t) \sum_{k+k_{2}=k} V_{k_{1}}(t) V_{k_{2}}(t) dt$

$$(5.16)$$

$$(5.16)$$

$$V_{k+1}(\alpha) \leq \frac{1}{140} I_{R}(\alpha) \int_{0}^{2} K_{R}(t) \sum_{k+k_{2}=k} V_{k_{1}}(t) V_{k_{2}}(t) dt$$

$$(k=0.12...)$$

(5,18)
$$w_{k+1}(x) \leq \frac{1}{10} \int_{0}^{\infty} (x) \int_{0}^{\infty} (x)$$

たの意

(5,19)
$$B_{R} = \frac{1}{140} \sup_{t>0} \frac{K_{R}(t) I_{R}^{2}(t)}{\frac{d}{dt} (t^{-\frac{1}{2}} I_{R}(t))}$$

$$= \frac{1}{140 J_{Z}} \sup_{s>0} \frac{K_{y_{s}}(s) I_{y_{s}}^{2}(s)}{I_{y_{s}}^{2}(s)}$$
(5,20) $B_{\beta} = \frac{1}{100} \sup_{t>0} \frac{K_{\beta}(t) I_{\beta}^{2}(t)}{\frac{d}{dt} (t^{-\frac{1}{2}} I_{\Delta}(t))}$

か有限になることに注意するとたのテ賀子(5.15)~(5.18)まり次のケ賀子が従う。

是程 5.1

是数 AR BR , As, Bs を上のようと歪めると スシののと き次の引導計が成り至う。

$$(5,21) \quad 0 \leq N_{k}(\alpha) \leq A_{R} I_{R}(\alpha) \left[A_{R} B_{R} \alpha^{-\frac{1}{2}} I_{R}(\alpha) \right]^{k}$$

$$\left(k = 0, 12, \dots \right)$$

$$\left(5,22 \right) \quad 0 \leq N_{k}(\alpha) \leq A_{F} I_{F}(\alpha) \left[A_{F} B_{F} \alpha^{-\frac{1}{2}} I_{F}(\alpha) \right]^{k}$$

$$\left(k = 0, 12, \dots \right)$$

しもが、2次の評価を得る。

定程5,2

2 \$ 3 E

E 7 3 E

又怕菜等结 R(11), S(11) 为次の子等扩色升足引。

to A to E 9 2 × RAI, SAI ->+00 E to 30.

$$I_{1/2}(e)$$
, $I_{7/2}(e)$ $\sim \sqrt{2\pi z} e^2$ (2 $\rightarrow +\infty$)

중 (1)선수 등 경험을 하고 있다. 그는 사람들은 사람들은 바다를 보고 있다면 보다.

143 構造券が知る 42 m3 (ついでに =のはまも W.B. Ford のなすかる徒う)のすたの (5.25) (5,26) かる次の弥組が徒 う。

是限 5.3

13 12 10>0 € € 3 €

 $(5.27) \quad R(A), S(A) \geq \left(\frac{5}{2\sqrt{2}} \log t\right)^{\frac{2}{5}} \quad \left(0 < \lambda \leq \Lambda_0\right)$

かなりまつ。

今すかの発見 (2.3) (2.4) (4.13) (4.14) (4.17) (5.2) を合めせる

全限
const. の園当な正庭義を蔵めすかのとすると 次のう等
すかなりまつ

const $|\Lambda|^{-\frac{1}{10}} \leq R(\Lambda)$, $S(\Lambda) \leq const |\Lambda|^{-\frac{1}{10}}$ ($|\Lambda| \geq \lambda_0$)

const $(\log \frac{1}{10})^{\frac{2}{5}} \leq R(\Lambda)$, $S(\Lambda) \leq const (\log \frac{1}{|\Lambda|})^{\frac{2}{5}}$ ($|\Lambda| \leq \lambda_0$)

= 4 5 12

N(2,1) = \(\int_{\int_{k=0}}^{\infty} a_{jk} \cdot 2^{5j+10k+8} \) \(k+1 \)

w(21) = 2 bjk 2 5/710k+8 k+1

モン変数 (3,1) の小中報数とみをとよの角連収ま年経 (RA),1) (SA),1) (A>0) たかんする十分磁点の 引く報論でよろう。このようと特象な結論が得られるという 夏味で、方程本 (1.1) も Painlevé エ聖戸程本と同様に 十分興味おる研究科象をいえるでみるう。

R, 戸を評値するという本能にもといろう。 (5,25) (5,26) トみいと 入到 とりると

なる評領を得る。これらは R, F を科月3 下からの評領で するが、 実際に数値を取出る LD BR, Bs を数値的に取 めたりれかでならない。これか日下気行やご録論に至っている い。しかしたの評値の W.B. Ford のムチという急量的とみ てきた要優れる公子を基づいるいると途中の評値もどこま こしたるかいなくかしていない。 (25), (26) よりかなり 言い 智泉が得るれるものと期待している。

最後に、シンプラムでは Pain levé I型主発するも言及したが == さら無数もっきたので 有触りる。

能値計算を12いたないと 野田桜太郎在上野海12つつ

(10) の証明的ヤンレッので有触した。